

なるほどのう



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

10月号

【めあて—まとめ・振り返りのある授業づくりの提案】 「まとめの全員アウトプット」で学力の定着を図る

9月号では、西部地区の全ての先生で「めあて—まとめ・振り返り」を生かした授業実践を進めることをお伝えしました。本号では、その中の「まとめ・振り返り」にスポットを当て、〈初級編〉から〈上級編〉まで、段階を追ってお示ししています。授業後半の「まとめ・振り返り」の設定はもちろんですが、「まとめ」を全ての子供が自分の言葉でアウトプットできてこそ、その時間のめあてが達成できたと言えます。校種や教科に関係なく、全ての先生で実践化される参考資料として、御活用ください。

「めあて」—「まとめ・振り返り」を生かした授業づくりのチェックリスト

本号では、全ての先生が日々の授業で意識し、活用できるよう「めあて」—「まとめ・振り返り」のチェックリストを作成しました。「まとめ」の問いとなる「めあて」の設定から「全員アウトプット」を目指した「まとめ・振り返り」まで、初級・中級・上級とお示ししています。日々の授業はもちろん、校内授業研究会等で授業を見る視点として活用をお願いします。

特別支援教育ほっと通信

9月21日に開催しました「西部地区特別支援教育ワークショップ」には、お忙しい中、多くの学校から御出席いただき、ありがとうございました。

特別支援教育の推進においては、特別支援学級担任や特別支援教育主任の先生方が中心となり、児童生徒一人一人に対し、適切な指導及び必要な支援を行っていただいています。本号では、学校訪問の際にいただいた特別支援教育に係る質問をもとに、参考になるホームページや資料等を紹介しています。

【めあて・まとめ・振り返りのある授業づくりの提案】 「まとめの全員アウトプット」で学力の定着を図る

〈初級編〉学習をまとめ、振り返る時間を確実に設定する！

問A、授業で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示したか
問B、授業の最後に学習したことを振り返る活動を行ったか

選択肢		問A 小学校	問B 小学校	問A 中学校	問B 中学校
よく行った	教師	79.5	60.6	87.1	46.8
	(児童生徒)	(57.4)	(41.1)	(65.9)	(31.5)
どちらかといえば、行った	教師	19.7	36.2	12.9	41.9
	(児童生徒)	(31.6)	(38.1)	(28.0)	(41.9)

平成29年度全国学力・学習状況調査に関する鳥取県（全体）の回答
※下線は教師と子供とで10ポイント以上開きがあるもの

授業の目標（めあて・ねらい）が示されている割合は高いですが、振り返る活動が行われている割合はぐんと下がります。

授業の終末に、「学んだこと」を自分で説明できてはじめて「分かった」「できた」と言えます。

〈中級編〉「まとめ」の全員アウトプットで、学習内容の定着を図る！

全員が
目指そう

問題 ジュース $\frac{2}{5}$ Lと $\frac{1}{5}$ Lをあわせると何Lですか。

分母は同じだね。

式 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$

整数ならかんたんだけど、分数でもたし算できるのかな。

まとめ
分母が同じ分数のたし算は、もとなる分数の何こ分になるかを考えれば、整数と同じように計算することができる。

めあて 分母が同じ分数のたし算の仕方を考え、説明しよう。

練習問題
① $\frac{2}{7} + \frac{3}{7}$ ② $\frac{4}{5} + \frac{1}{5}$

答えも分数になりそうだ。
分子も分母もたしてみてはどうか。
「1Lます」の図をかくて考えよう。
線分図で表してみよう。

答えが1をこえてもいいの？

これが今日の「めあて」に対する「まとめ」です。教師が学習指導要領解説等をもとに「まとめ」を言語化し、提示することが大切です。

「まとめ」を言語化することは、教師自身の授業のゴールイメージを明確にすることにもつながります。



まとめた内容について全員が書いたり声に出したりする機会（アウトプット）をつくることで、学習内容の定着を図ります。

全員
アウト
プットの
例



書く



ペアで



グループで



全員交代で

〈上級編〉まとめ→理解確認のための教師の問い返し→子供のアウトプットで、まとめの内容の確実な定着を図る。



みんなで作った「まとめ」について順番に説明してみましょう。友達の説明のいいところを取り入れたり、足りないところは補ったりしましょう。



分母はどちらも5なので、分母はそのままにして分子だけを計算します。分子が2+1で3になるので答えは3/5です。



もとなる分数が1/5です。2/5はこれが2こ。1/5は1こ。つまり1/5が(2+1)こで3こになるので、答えは3/5です。



もし問題が1/7+2/7だったとしたら、もとなる分数の1/7がいくつ分になるかを考えれば整数と同じように計算ができます。



もう、みんなが自分の言葉で言えそうですか？では、となり同士で説明し合ってみましょう。

説明の質が高まっていく

うまく説明ができなかった子供については、最後にもう一度指名し、確実にアウトプットができるようにします。



「めあて」ー「まとめ・振り返り」を生かした授業づくりのチェックリスト

チェックリストを活用して日々の授業を振り返りましょう。
全ての先生が中級以上を目指しましょう。

校内授業研究会で、授業を見る
視点としても活用できます。



初級

中級

上級

めあて

- 本時の単元名やタイトルを「めあて」として提示している。
- 教師が用意した「めあて」を設定し、提示している。

- 本時のゴールイメージから「めあて」を構想している。
- 「まとめ」と「めあて」が正対している。
- 子供の疑問や気付きをもとに「めあて」を設定し、提示している。

- 追究に向けての必然性や意欲を持つことができるよう、課題を子供から引き出し、「めあて」として提示している。
- 子供が自ら「めあて」を設定することができるよう、既習事項との相違点や共通点を明らかにしている。

まとめ

- 教師主導で本時の「まとめ」を行い、板書等で提示している。

- 子供の発言から「まとめ」を作成し、板書に整理している。
- 教科ならではの学習用語を取り入れている。
- 全ての子供がアウトプットする場を設定している。

- 子供が自分の力でまとめることができるよう、必要なキーワードを子供から引き出し、板書に整理している。
- 理解確認のための問い返しをすることで、全ての子供が「まとめ」について具体的にアウトプットできるようにしている。

振り返り

- 感想や質問を書く時間を設定している。
- ノートやワークシートに振り返りの記入欄を設けている。

- 具体的に振り返ることができるよう、振り返りの視点を示している。

- 振り返りに対して教師が価値づけや問い返しを行うことで、「何が分かり、できるようになったのか」を全ての子供が自覚できるようにしている。

ゴールイメージ



大切なのは、ゴールイメージを明確にして、主体性を引き出し、学習内容の定着を図る授業づくりをすることです。教科の特性や単元の展開に応じて、めあてやまとめ・振り返りを適切に設定しましょう。



特別支援教育ほっと通信



平成29年10月
西部教育局

特別支援教育の推進においては、特別支援学級担任の先生方を中心に、日々工夫しながら学級経営や学習指導に取り組んでおられることと思います。今回は、学校訪問の際に先生方とお話しする中で、質問の多かった内容について紹介します。

Q1 「障害」の「がい」の表記について、漢字の場合やひらがなの場合がありますが、何かきまりがあるのですか？

A1 鳥取県では平成21年11月28日より障がいのある方の思いを大切に、共生社会の実現を推進するという観点から、「障害」を「障がい」と表記することと定められました。

(参考) <http://www.pref.tottori.lg.jp/170984.htm> (鳥取県障がい福祉課ホームページ)

ただし、その用語の持つ意味が失われたり誤解される恐れがある場合については、適用除外とされます。

- 法令等の名称を用いる場合
- 他の機関、大会等の名称等の固有名詞を用いる場合
- 医学用語等の専門用語として用いる場合
- 著作物を引用する場合



Q2 校内の支援体制を整備する上で、参考になる資料はありませんか？

A2 【発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン
～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～】

平成29年3月 文部科学省

(参考) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1383809.htm (文部科学省ホームページ)

以下のような観点(一部紹介)で作成されています。

- 役職ごとの役割や必要な資質
- 進学時等における学校間での情報共有(引継ぎ)の留意事項
- 養護教諭の役割

「校長用」、「通常学級担任用」「特別支援学級担任用」等と、役職ごとに役割等が記載！

具体事例を挙げて、適切な引継ぎの在り方について記載！

個別に話を聞ける状況を活用した情報収集、校内委員会への協力、医療機関との連携等、重要な役割を担うことが記載！

「おとなしく座っているが教科書が同じページのまま動かない」「特定の領域のテストで点数が取れない」といった子供達のサインに気付いていますか？サインを見逃していませんか？

校内委員会の構成員になっておられますか？

個別の教育支援計画等を活用して適切に引き継がれていますか？

Q3 特別な支援が必要な子供たちにとって、各教科等の学習で有効な支援とはどのようなものがあるのですか？

A3 新学習指導要領では、各教科等の解説の中の「障害のある児童への配慮についての事項」に、具体的な支援例が記載されました。

(参考) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm (文部科学省ホームページ)

【支援例(小学校 算数)】

空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合、空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように、立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取図や展開図と見比べて位置関係を把握したりするなどの工夫を行う。

あくまでも一例ですが、子供たちの状況を見取る際の参考にもなると思いますので、御覧ください。

平成29年4月6日付で特別支援教育課から通知されています。

